

地 理 歴 史

1 学習指導の工夫・改善

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

社会とのつながりを意識した「生きる力」の育成については、学習指導要領においても引き続き充実させることが求められている。地理歴史科においても、平成20、21年改訂の学習指導要領における小・中・高等学校を通じた社会科、地理歴史科、公民科の成果と課題を踏まえ、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実を図って、次の資質・能力を育成することが必要である。

【平成20、21年改訂の学習指導要領における小・中・高等学校を通じた社会科、地理歴史科、公民科の成果と課題、及び育成を目指す資質・能力】	
成果	○社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いた授業の実施
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成が不十分 ●資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分 ●課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業の実施が不十分
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力 ○自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力 ○持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度

したがって、指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ることが大切である。なお、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動では「社会の変化に主体的に対応できる力」や「自ら学ぶ意欲や課題を見いだし追究する力」を養うことが重要であることから、こうした探究的な学習を推進する際には、次に示すポイント及び留意事項を踏まえることが大切である。

ポイント	生徒が自ら主題や課題を設定した上で、 ①社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を重視する。 ②調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習を充実する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象については、生徒の考えが深まるような様々な見解を提示する。 ・多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益で適切な教材に基づいて指導する。 ・特定の事柄について偏った取扱いをすることにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げないようにする。 ・情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用する。 ・情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。

(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

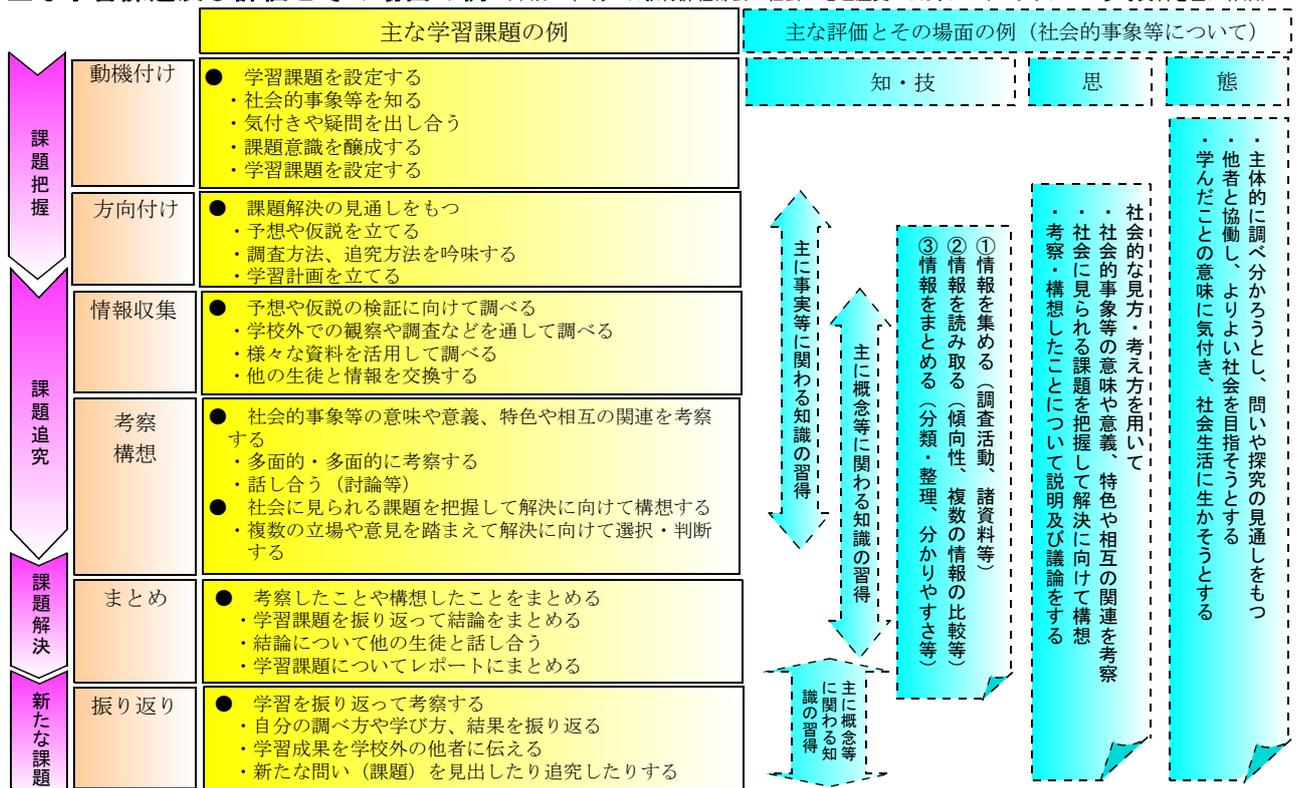
学習指導要領では、地理歴史科の目標として、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること」が掲げられている。

このうち、「社会的な見方・考え方」とは、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」のことである。また、「社会的な見方・考え方を働かせる」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。

このことを踏まえ、地理歴史科における探究的な学習の評価においては、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。「指導に生かす評価」を充実させるためには、日々の授業の中で生徒の学習状況を把握し、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが重要であり、Googleスプレッドシートに学習の経過を記録するなど、学習支援ソフト等のICTを活用することが効果的である。

なお、学習評価における「記録に残す評価」は、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する必要があることを踏まえて行うことに留意する必要がある。また、毎回の授業で全ての学びが実現されるものではないことから、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面、グループなどで対話する場面及び生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、適切に評価場面を設定する必要がある。

主な学習課題及び評価とその場面の例（平成28年6月13日教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ参考資料を基に作成）



2 指導と評価の計画例

(1) 地理総合「C(2) 生活圏の調査と地域の展望」の計画例

ア 単元の目標

- 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。
- 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、「持続可能な地域社会の創造」などの主題を設定し、「持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。」などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、「持続可能な地域社会の創造」などの主題を設定し、「持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。」を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（15時間）

※○：「評定に用いる評価」、●：「学習改善につなげる評価」

	ねらい、学習活動等	評価の観点		
		知	思	態
第1次(3)	<p>【学習課題：単元全体に関わる問い】 ※年間指導計画(例)全体はこちらをクリック 持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。</p> <p>○単元の導入 生活圏の人口動態や産業構造の情報を基に、「持続可能な地域社会の創造」について、単元の見通しを持つ。</p> <p>【学習課題】 どのような問いと仮説が考えられるのだろうか。 本時</p> <p>○課題設定 ワークシートを用いて、グループごとに、課題を設定する。 【設定した課題の例】 オールドタウン化する私たちの地域にとって、どのような地域づくりが必要だろうか。</p> <p>○事前調査（デスクワーク） 設定した課題についての情報を収集する。</p> <p>○仮説・検証計画の設定 スプレッドシートを用いて、仮説を設定するとともに、検証計画の設定を行う。 設定した仮説の例：・若年層の転入を促す再開発が必要である ・買物難民となり得る高齢者を支援する取組が必要である</p>	●	●	●
第2次(5)	<p>【学習課題】 設定した仮説を検証するためには、どのような資料が必要だろうか。</p> <p>○情報の収集 設定した検証計画をもとに、情報収集を行う。 ・現地調査（フィールドワーク）：住宅街の様子、商店の分布の変容 ・聞き取り調査：市の転入支援策、福祉政策、高齢者の買物行動 ・その他（RESAS、e-Stat、市統計書）</p>		○	
第3次(3)	<p>【学習課題】 どのようにまとめることで、効果的な発表になるだろうか。</p> <p>○整理・分析 自ら設定した探究の課題について、整理・分析を行い、立てた仮説を検証してまとめる活動を行う。 例：公営住宅の建て替え、公共交通網の再整備、宅配サービスの実施、商店街の再興</p>		●	

第 4 次 (3)	<p>【学習課題：単元全体に関わる問い】 持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。</p>	○
	<p>○発表 発表を行い、その内容から活動の振り返りとまとめを行う。</p>	

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価】
 単元全体に関わる問いについての考え方が、
 学習活動を通して、どのように変容したかを見取る。

エ 学習指導案（2時間目／15時間）

(ア) 本時の目標

単元の導入を受けて、主題である「持続可能な地域社会の創造」について、生活圏で見られる課題を見出し、自らの課題を設定する。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5分	○本時の学習課題を提示 【本時の学習課題】どのような問いと仮説が考えられるのだろうか。	
展開 35分	<p>●地理総合 課題設定シート</p> <p>【学習課題：単元全体に関わる問い】 持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。</p> <p>ワークシートを用い、次の作業を行う ステップ1：地域の理想の姿を思い描く。 ステップ2：地域の現状をまとめる。 ステップ3：現状と理想の「ずれ」「隔たり」を明確にする。 ステップ4：その状況を改善するための課題を設定する。</p>	
まとめ 10分	○全体共有 ・各グループで設定した課題をGoogle Jamboardで共有する。	必要に応じて課題の修正を促す

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

(ア) Google Jamboardを用いた課題設定の例（第1次3時間目）

(イ) 教師によるフィードバック

- ・ ICTを活用することで、授業後に生徒の考えや意見の変容を整理することができるだけでなく、授業中に生徒のつまづきや困り感をリアルタイムで把握することができる。
- ・ 生徒の状況に応じ、「問い」や仮説を再検討させたり、新たな問いを提案させたりする。

(2) 地理探究「C(1) 持続可能な国土像の探究」の計画例

ア 単元の目標

- ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。
- ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、「持続可能な地域経済活性化」などの主題を設定し、「北海道における持続可能な地域経済の活性化とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。」などを、多面的・多角的に探究し、表現する。
- ・持続可能な国土像について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。	・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、「持続可能な地域経済の活性化」などの主題を設定し、「北海道における持続可能な地域経済の活性化とはどのようなものだろうか。また、そのために私たちはどのように関わることができるのだろうか。」などを、多面的・多角的に探究し、表現している。	・持続可能な国土像について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（8時間）

※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価

	ねらい、学習活動等	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (1)	<p>【学習課題：単元全体に関わる問い】 北海道における持続可能な地域経済の活性化とはどのようなものだろうか。</p> <p>○単元の導入 北海道の人口動態や産業構造の情報を基に、「持続可能な地域経済の活性化」について、単元の見通しを持つ。</p> <p>○課題設定 「地理総合」及びこれまでの「地理探究」の学習を踏まえて、グループごとに、課題を設定する。 【設定した課題の例】北海道の持続可能な地域経済の活性化のためには、どのような産業の発展が必要だろうか。</p>		●	●
第2次 (2)	<p>【学習課題】どのような仮説が考えられるのだろうか。</p> <p>○仮説・検証計画の設定 グループワーク等を通じて、単元全体に関わる問いについて、仮説を修正するとともに、検証計画を設定する。 仮説の例：北海道の活性化にとっては、観光業の発展が必要である。</p>	●	●	
第3次 (3)	<p>【学習課題】設定した仮説を検証するためには、どのような資料が必要だろうか。</p> <p>○情報の収集 設定した検証計画をもとに、情報収集を行う。 ・現地調査（フィールドワーク）：観光地の様子 ・聞き取り調査：観光客の旅行日程、北海道に期待すること ・その他（RESAS、e-Stat、観光統計）</p>		●	
第4次 (2)	<p>【学習課題：単元全体に関わる問い】 北海道における持続可能な地域経済の活性化とはどのようなものだろうか。</p> <p>○発表 発表を行い、その内容から活動の振り返りとまとめを行う。</p>			○

学習内容をより深めるため、「北海道経済の活性化に向けて」というテーマで、生徒同士による討論を実施することも有効である。

エ 学習指導案（4時間目／8時間）

(ア) 本時の目標

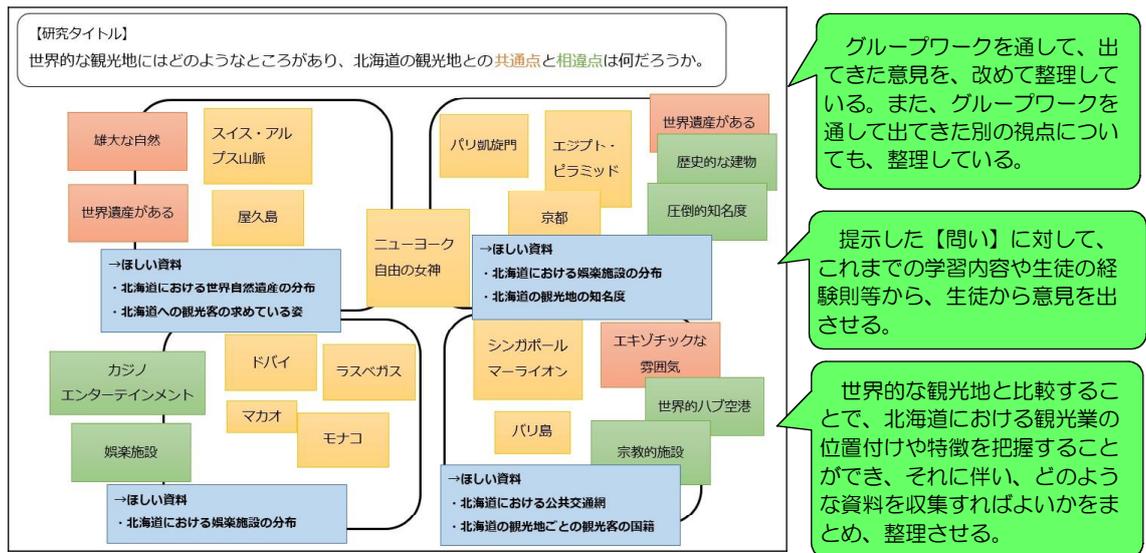
設定した仮説を検証するために今後どのような資料を収集するか、グループワーク等を通して整理する。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5分	○ 本時の学習課題の提示 【学習課題】設定した仮説を検証するためには、どのような資料が必要だろうか。	
展開 35分	○ 次の観点に基づき、Google Jamboardを用いて、北海道における観光の現状について、グループ内で整理し、共有する。 ・世界的な観光地にはどのようなところがあり、北海道の観光地との共通点と相違点は何だろうか。 ○ グループワークの内容に基づき、どのような資料を収集するべきかを考察する（個人作業）。	※「才 授業改善につながる『指導に活かす評価』の工夫」を参照 グループワークや発表を実施することで、第1次で生徒がスプレッドシートに記載した時点よりも、考えを深めることが期待できる。
まとめ 10分	○ 個人作業の結果をグループ内で共有し、グループとしてどのような資料を収集するかを整理し、まとめる。	

オ 授業改善につながる「指導に活かす評価」の工夫

(ア) Google Jamboardを活用したグループワークの例



(イ) 教師によるフィードバック

ICTを活用し、生徒間で「問い」に対する考えを共有することで、それぞれの生徒が「単元全体に関わる問い」に対してどのような考察をしているのか等を把握することができる。また、今後の学習活動を進める中で想定していた「問い」を修正したり、想定していた「問い」から発展させた内容としたりすることが可能となり、より生徒の実態に応じた学習展開とすることができるとともに、教師も生徒の学習改善につながるようなフィードバックが可能となることが考えられる。

また、ICTを活用した協働的な学びを通して、生徒は自分の思考を整理し、異なる考えに触れることで、新たな気づきを得ることができ、第1次において立てた仮説から、自分自身で考察の深まり等の変容を実感できると考えられる。

(3) 歴史総合「D(4) 現代的な諸課題の形成と展望」の計画例

ア 単元の目標

- ・課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。
- ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「グローバル化と私たち」の学習を振り返りながら、現代的な諸課題について主体的に探究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯を踏まえて、現代的諸課題を理解している。	事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「グローバル化と私たち」の学習を振り返りながら、現代的な諸課題について主体的に探究しようとしている。

ウ 指導と評価の計画（5時間）

※○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

	ねらい、学習活動等	評価の観点		
		知	思	態
1 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・大項目D(1)で生徒自らが表現した「問い」について振り返り、「問い」について自ら考えたことを表現する。 ・1年間の学びを踏まえ、生徒自らが探究したい主題を設定し、主題に基づいた現代的な諸課題に関わる「問い」を表現する。 <p>【主題例】ジェンダー平等の実現 【問い】ジェンダー平等の実現に向けて、私たちには何ができるか。また、実現された世界は、どのような世界なのだろうか。</p>		●	○
2 4 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目の主題や問いを表現する活動に引き続き、以下の活動を進める。 (1) 「近代化」、「大衆化」、「グローバル化」の各局面でこれまでに学習した内容のうち、「問い」に関連する内容を変化や推移が分かるよう整理する。 ・近代化：家父長制、性別役割分業 ・大衆化：女性解放運動、女性参政権 ・グローバル化：ウーマンリブ、LGBTQ (2) 「問い」に対する自分の予想（仮説）をワークシートに記入する。 (3) 仮説をもとに、史資料を収集する。 (4) 史資料を整理分析し、「主題」、「問い」そして仮説に対して明らかになったことをまとめる（必要に応じて、仮説を表現し直す）。 (5) 「問い」に対する「答え」を出す。 (6) 更なる疑問、新たに生まれる「問い」を表現する。 ※「主題」、「問い」の表現や、(1)～(6)のまとめは、ワークシート、レポート、Googleスライド等で行うことが考えられる。 	○	●	○
5 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ、発表 ・発表を通して、疑問点や新しい視点などについて意見交換を行い、学習の振り返りを記録する。 ・意見交換を踏まえて、生徒自らがワークシートやGoogleスライド等の修正を行い、「問い」の「答え」をワークシートやGoogleスライド等書き入れ完成させる。 		○	○

総合的な探究の時間における、「課題の設定」、「情報の収集」等と関連を持たせる。

生徒自らが社会とのつながりを見出せるよう、D(4)の問いを表現する際には、大項目B、C、Dで各自が立てた問いを参考に。また、現代的諸課題やSDGsとのつながりに留意するよう指導する。

(1)～(6)の探究活動に際して、ICTを活用すること。例えば、Google ClassroomでワークシートやGoogleスライド等を配信し、生徒は自分に合ったまとめ方を選択し探究を行うことで、個別最適化された学びの実現につながる。また、教師が生徒の進捗状況を確認しながらフィードバックすることができる。

本時

エ 学習指導案（5時間目／5時間）

(ア) 本時の目標

作成したワークシートを発表する活動を通して、多面的・多角的な視点から自身のワークシートの記述を見直すことができる。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の目標、流れについて確認する。	
展開	・ワークシートを「Google Classroom」で共有し、グループ内で発表する。 ・発表後には質疑応答を行い、疑問点や新しい視点などについて意見交換し、学習の振り返りを記録する。	・発表の際は、根拠を踏まえるようにする。 ・現代的な諸課題を多面的・多角的に考察しながら、自らの立ち位置を明確にして考察した結果を表現させる。
まとめ	・グループでの意見交換を踏まえ、各自のワークシートを修正し、完成させる。	・仮説とワークシートのまとめを他者のものと比較し、学びを自己調整できるようにする。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

生徒が行う探究活動が充実するよう、生徒自らが設定する主題や問いを表現する際に、次の観点で指導することが大切である。

(ア) 主題の設定と学習上の課題（問い）の表現

- ・生徒が主題を設定する際は、大項目 B、C 及び D (1) で生徒が表現した問いや、これまでの学習を通して見直した問い及び新たに生まれた問いを 振り返るようにする。
- ・生徒が表現する問いは、抽象的な内容ではなく具体的な内容にする。

	生徒が表現する問いの例	問いの改善例
具体化	なぜ戦争はなくなるのだろうか。	<u>国際連盟や国際連合を設立したのにも関わらず、なぜ戦争はなくなるのだろうか。</u>
開かれた問い	世界の環境問題の種類は、何があるのだろうか。	世界の環境問題はどのような歴史的経緯で深刻化し、 <u>どのような対策ができるの</u> だろうか。
改善	日本の選挙制度の変化には、誰が大きな影響を与えたのだろうか。	世界の選挙制度にはどのような課題があり、 <u>私たちは選挙制度の課題に対してどのように考え、どう行動すべき</u> なのだろうか。

現代的な諸課題の設定につまずきを感じている生徒には、例えば「SDGs」を基にして設定するよう指導することも考えられる。

(イ) 生徒に身に付けさせる資質・能力を評価するための準備

- ・D (4) で生徒が自ら探究する活動ができるようにするため、科目を通して身に付けさせる資質・能力を踏まえた 年間計画 を作成することが大切である。

Step	年間計画の作成手順
①	・大項目 B～D を分析するための概念の設定 <u>B近代化と私たち：「産業革命と資本主義」、「主権国家体制と国民国家」、「帝国主義」など</u>
②	・各概念を構成する部品である分析概念を設定、単元を貫く問いを表現 <u>分析概念「産業革命」→単元を貫く問い「産業革命は私たちの生活を豊かにしたの</u> だろうか
③	・科目のねらいを達成するため、各概念を学習できる歴史的事象を選定（定期考査 8 時間、大項目 A 2 時間、D (4) 5 時間の場合、残り 55 時間）
④	・授業ごとに取り扱う歴史的事象や身に付けさせる分析概念を踏まえ、授業ごとの問いを設定し、問いを考えるための諸資料を用意

(4) 日本史探究「A 原始・古代の日本と東アジア」の計画例

ア 大項目の目標

- ・ 原始・古代の日本と東アジアについて、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けるとともに、原始から古代の政治・社会や文化の特色及び変容を理解する。
- ・ 原始・古代の日本と東アジアについて、政治・社会や文化の特色及び変容を多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。
- ・ 原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 大項目の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原始・古代の日本と東アジアについて、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けるとともに、原始から古代の政治・社会や文化の特色及び変容を理解している。	原始・古代の日本と東アジアについて、政治・社会や文化の特色及び変容を多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している	原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 大項目の指導と評価の計画 (18時間) ※「○」：評定に用いる評価「●」：指導に生かす評価

	ねらい、学習活動等	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【4時間扱】 問いの表現	<p>【大項目全体を貫く問い】古代日本に「国家」は存在したのか。</p> <p>(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 原始・古代の日本が置かれた歴史的環境や文化の形成の理解を基に、時代の転換について考察して、「時代を通観する問い」を表現する。</p> <p>エの学習指導案等を参照</p>	○	●	●
第2次 【1時間扱】 仮説の表現	<p>(2) 歴史資料と原始古代の展望 時代の特色を示す資料を活用して、(3)、(4)の学習への見通しを立てて探究的な学びに向かう仮説を表現する。</p> <p>オの学習指導案等を参照</p>	○	○	●
第3次 【8時間扱】	<p>【中項目を貫く問い】古代国家が目指したものとは何か。</p> <p>(3) 古代の国家社会の展開と画期① 古代国家の形成について、律令の意味や意義、東アジアとの関係性などを考察し、歴史に関わる諸事情の解釈や歴史の画期を表現する。</p>	○	○	●
第4次 【5時間扱】	<p>【中項目を貫く問い】律令国家は崩壊したのか、それとも日本風に変容したのか。</p> <p>(3) 古代の国家社会の展開と画期② ・ 古代国家の展開について、律令制の変容、貴族の政治・文化の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事情の解釈や歴史の画期を表現する。 ・ 「原始・古代の日本と東アジア」を振り返り、原始・古代の特色についてまとめ、中世の学習につなげる。</p> <p>カの学習指導案等を参照</p>	○	○	●

Kahoot(アプリ)を活用し、生徒の問いを共有。フィードバック機能で、意見の分類・統合を行う。

問いや仮説は、Googleフォームとスプレッドシートを活用し、全体の意見共有を効率よく実施する。

・ goodNotes5 (アプリ)を用いて、資料の提示の仕方を工夫する。
・ 協調学習(知識構成型ジグソー法)に基づき、資料の解釈を進める。

歴史総合で得た概念や日本と東アジアとの関係に着目しながら、大項目全体を貫く問いに関して探究的に活動をする。

エ 学習指導案等（「時代を通観する問い」の表現）（4時間目/18時間）

(ア) 本時の目標

原始・古代の日本について、時代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く「問い」を立てることができる。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	・「原始・古代日本」とはどのような時代なのか、生徒の既存の知識を確認する (5分)	・発問により、既存の知識を確認
展開 (35分)	・ エキスパート資料 を配付し、個人で読み解く (10分) ・同じ資料ごとに内容を共有し、話し合う (5分) ・異なる資料を共有し、ワークシートに記入 (10分) ・「原始・古代日本」とはどのような時代なのか、自分の言葉で表現する (10分)	・概念や歴史的事象を事前に整理 ・知識構成型ジグソー法により、資料解釈の深化
まとめ (10分)	・展開の内容をもとに、原始・古代の「時代を通観する問い」を表現する (10分)	・生徒の「問い」の全体共有

(ウ) 「問い」を表現するための工夫

中項目(1)では、生徒自身が「時代を通観する問い」を表現することが求められている。生徒が時代の転換に関わる事象の理解の中で見出した疑問を、「時代を通観する問い」として表現できるような指導の工夫が必要である。下記は諸資料を活用して、知識構成型ジグソー法を行った事例である。思考ツールを使用し、生徒が自分の考えを可視化できるよう、支援することも有効である。

(エ) 具体的な評価例（中項目(1)イ(イ)に関わる評価例）

例1 「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

なぜ日本は隋や唐の文化を学びつつ、日本風に文化が変わっていったのか。

例2 「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例

縄文と弥生のどちらが裕福か。

「例2」の場合、古代日本を考えるきっかけの「問い」として問題ないが、「時代を通観する」という規準を満たしていないためCとして評価し、手立てを講じる必要がある。なお、生徒の「問い」の変容を見取ることができるよう、[振り返りシート](#)等を活用し、内容や時間のまとめりとともに生徒が修正した「問い」を把握する必要がある。[ここをクリック!](#)

オ 学習指導案等（「仮説」の表現）（5時間目/18時間）

(ア) 本時の目標

第1次で表現した「問い」に対し自分なりの仮説を立て、大項目全体の見通しを持つ。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	・生徒が各自で表現した「時代を通観する問い」を共有する。(10分)	・Googleフォーム、スプレッドシートを活用し、全員で共有する。
展開 (30分)	・「時代を通観する問い」に対し、前時のエキスパート資料等を踏まえ、仮説を表現する。(個人思考) (15分) ・仮説をグループで共有・検討する。(15分)	・生徒の学習の進み具合を見ながら、適宜発問の投げかけを行う。
まとめ (10分)	・「時代を通観する問い」と仮説を全体で共有し、時代を展望できるようにする。(10分)	・Googleフォーム、スプレッドシートを活用し、全員で共有する。

(ウ) 仮説を表現するための工夫

生徒は、中項目(1)で学習した時代の転換における変化や、その後の展開にどのような関係性をもつかについて、エキスパート資料などの諸資料を根拠に表現できるよう、支援する。

(エ) 具体的な評価例

例1 「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例

大陸と隔たれた日本は、他の東アジア諸地域とは異なり、独自の政治や経済、文化が発展しており、それらが融合できる環境にあったのではないか。

例2 「努力を要する」状況(C)と考えられる生徒の記述例

弥生時代の方が生産経済が行われたので、裕福だったのではないか。

「例1」の場合、東アジアにおける日本という視点と、原始・古代の日本の特徴や地理的な環境を踏まえた仮説であり、中項目(3)の学習内容の展望がもてる内容となっている。また、[振り返りシート](#)等を活用することで生徒の理解が深まる。

カ 学習指導案等(「諸事象の解釈や歴史の画期」を表現)(18時間目/18時間)

(ア) 本時の目標

中項目を貫く問いについて、根拠を示して表現することができる。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
展開 (30分)	・生徒が表現する「時代を通観する問い」、「仮説」を改めて考察し、第3・4次の学習を踏まえて原始・古代の特色をまとめ、中世へのつながりについて考察し表現する。(15分) ・「大項目全体を貫く問い」に関わる内容を表現する。(10分) ・表現した内容をグループで共有・検討する。(10分)	・生徒の理解が深まるよう適宜支援
まとめ (20分)	・展開で表現した内容を、検討を踏まえ修正する。(10分) ・中世への見通しを持つため、「なぜ武士は台頭するのか」について、表現し共有する。(5分)	・大項目Bへの見通しを持たせる。

(ウ) 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現するための工夫

生徒が「大項目全体を貫く問い」の答えを考えるための歴史的事象や概念を授業ごとに配列するため、年間計画の作成段階で整理する。

(5) 世界史探究「B(3) 諸地域の歴史的特質(I)」の計画例

ア 単元の目標

- ・ 仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。
- ・ 南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。	南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

ウ 指導と評価の計画（4時間）

○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

	ねらい、学習活動等	評価の観点			
		知	思	態	
第1次 (2時間扱)	主題 「南アジアと東南アジアの歴史」 本単元全体に関わる問い「多様性の中の統一とはどのようなことなのか。」 ・ 中学校までの学習やこれまでの学習を踏まえて仮説を立て、見通しをもって学習に取り組む。 問い「南アジアにおける諸宗教の特徴はどのようなものか。」 ・ 南アジアの諸宗教の特徴について、生徒がICT端末等を活用して情報収集し比較しながら考察し、表現する。 問い「古代インドで仏教が栄え、ヒンドゥー教に取って代わられた理由は何だとあなたは考えるか。」 ・ 仏教が拡大した要因、ヒンドゥー教に取って代わられた要因、さらに人々が宗教を受容する要因について、史資料を用いて考察し、グループで共有する。			●	<ICTの活用> 1枚ポートフォリオをGoogle Classroomで配信し、単元を貫く問いに対する仮説を入力する。 1枚ポートフォリオには、授業ごとに、生徒が各時の問いに対する解答と疑問点等を入力する。教師はこれに対するコメントをフィードバックし、学習改善・指導改善に役立てる。
	問い「東南アジアにおいて国家はどのように形成されたのか。」 ・ 東南アジアにおける国家形成の特徴について、自然環境や周辺世界との関わりに留意し、比較しながらまとめ、表現する。 問い「島嶼部と大陸部の国家や文化はそれぞれどのような特質があるか。」 ・ 島嶼部と大陸部の国家や文化の特徴について、周辺世界との関わりに留意しながらまとめる。 まとめ：本単元全体に関わる問いについて、単元での学習を振り返る ・ 学習を通して、「本単元全体に関わる問い」に対する自分の考えがどのように変化したのかを振り返って考察し、表現する。			●	<社会とのつながり> 古代インドを題材に取り上げ、人々がなぜ宗教を必要するのか、現代社会とのつながりを意識できるよう指導する。 1枚ポートフォリオを活用し、学習を通して自分の考えがどのように変容していったのかを見取ることができるようにする。
					○

エ 学習指導案（2時間目／4時間）

(ア) 本時の目標

古代インドで仏教が衰退しヒンドゥー教が浸透した理由について、複数の史資料から読み取り、自分の考えを表現することができる。

(イ) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>問い「古代インドで仏教が栄え、ヒンドゥー教に取って代わられた理由は何だとあなたは考えるか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の内容を踏まえ、仏教とバラモン教の長所と短所について考え表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要点を簡潔に表現させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ インド古代国家の仏教政策や部派仏教の成立、仏教文化について、知識を確認する。 ・ 仏教が拡大した要因、ヒンドゥー教に取って代わられた要因、さらに人々が宗教を受容する要因について、史資料を用いて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識の確認は、解説が長くならないよう留意する。 ・ 史資料の主旨を読み取らせた上で抽象化させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業を振り返り、問いについて自分の考えを表現するとともに、授業を通じた自己の考えの変化について整理する。 ・ ICTを活用して、考察したことをグループで共有する。グループでの共有内容を踏まえ、自分の考察を1枚ポートフォリオに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思考をメタ認知できるようにする。 ・ 考察したことを共有することで、他者の視点を取り入れ、思考の幅が広がるようにする。

ワークシートは前時に配付し、かつGoogle Classroomに授業で使用するスライドとともに配信することで、教科書を参考にしながら各自家庭で予習を終えるようにする。

史資料から、課題の解決につながる様々な情報を適切に読み取り、抽象化できているかについて、「思考、判断、表現」の観点で評価する。

<ICTの活用>
グループでの共有内容を、全体でも共有できるように、時間配分する。各グループで表現した考察の結果を、全体共有でも活用するため、Googleスライドを活用してグループワークを行う。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

1枚ポートフォリオ及びICTを活用することで、教師は、生徒の学びの様子を把握しやすくなるため、生徒にフィードバックすることで学習改善につなげることができる。また、自身の授業改善につなげることもできる。

1枚ポートフォリオは、生徒が単元全体に関わる問いに対して仮説を立て、見通しをもって学習活動に取り組んだ結果を可視化することができるため、主体的に学習に取り組む態度の育成に有効である。また、各生徒の問いの解答をGoogleスライドを活用して全体で共有することで、協働的な学びを行うことができる。

併せて、1枚ポートフォリオに疑問点や更に知りたいことを記入することで、問いを立てる力の育成につなげることができる。

【参考】 [1枚ポートフォリオとGoogleスライドを活用したグループワークの例](#)

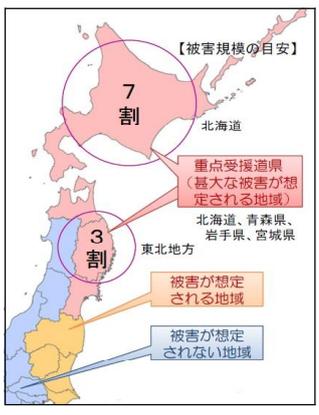
ポートフォリオの様式及び生徒の記入例は、ここをクリック

生徒の記入例はここをクリック

Topic

地域の防災を題材とした探究活動の取組例

中央防災会議幹事会が令和5年に策定した「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震における具体的な応急対策活動に関する計画」において、北海道は重点受援道県（甚大な被害が想定される地域）に指定されています。これを踏まえ内閣府は、平時の備えとして、安否確認手段、避難場所・経路の確認などを行うよう、国民へ協力を要請しています。



生活圏で見られる自然災害については、「地理総合」C(1)で取り扱うこととしており、ここでは、生徒の防災意識を高めるため、生徒が主体的に探究的な学習に取り組む活動事例を紹介します。

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震具体計画が想定する国民への協力の要請 内閣府
国民の皆様には、冷静に対応して、ご自身の安全を確保していただくとともに、円滑かつ迅速な応急対策活動のため、次の点についてご協力をお願いします。

平時の備え	発災時の対応
<ul style="list-style-type: none"> 安否確認手段、避難場所・経路の確認 最低3日分(推奨1週間分)の備え 	<ul style="list-style-type: none"> 地震による揺れから身を守る 津波からの避難

「地域の防災」を題材とした「地理総合」における生徒の活動事例

C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災

	学習活動	教師の働き掛け等
1時間	<p>○主題の設定 「私たちのまちの防災対策」</p> <p>○単元全体に関わる問いの設定 「私たちの住む地域では、自然災害に対してどのような備えが必要か」</p>	<p>主題を設定する際は、これまでの学習を踏まえ、自然環境から予想される生活圏の自然災害について考察する。</p> <p>地域の地形図を基に、どの地域で、どのような自然災害が想定されるかを読み取り、Google Jamboardを活用してグループ内で共有し、問いに対しての仮説を立てる。</p>
3~4時間	<p>資料の収集・分析</p> <p>○ハザードマップの分析 分析の視点：危険度が高い地域はどのように分布し、なぜその場所は危険度が高いと考えられるのだろうか。</p> <p>※ハザードマップは各自治体のWebページからダウンロードできます。</p>	<p>生活圏のハザードマップから、想定される自然災害とその危険度の高い地域を読み取り、「なぜその場所は危険度が高いと考えられるのだろうか」という問いを設定し、危険度の想定理由を考察する。</p> <p>グループごとに地区を分担し、地域の自然環境の特色に応じた自然災害への備えや、避難計画を作成するための調査方法について話し合う。</p>
5時間	<p>考察・構想</p> <p>考察の視点：身近な地域では、自然災害に対してどのような備えが必要か。</p>	
6時間	<p>まとめ・表現</p> <p>表現の視点：グループで議論したことを基に、生活圏の地域性を踏まえた防災や緊急時の行動などについて考察し、レポートにまとめる。</p>	<p>現地調査やGISにより防災や避難に関わる情報を収集し、適切に地図などにまとめる。</p>



本単元の学習の成果は、学校行事「防災教室」の中で発揮することができます。写真はある道立高等学校の防災教室において、避難所運営ゲーム北海道版（愛称：Doはく）を行っている様子です。「Doはく」は、静岡県が開発した避難所運営ゲーム（HUG）に、北海道の積雪や寒冷等の厳しい気候や東日本大震災の経験などの観点を加えて作成されたもので、「Doはく」を通じて避難所生活やその運営を自分事としてとらえ、地域の防災対策の課題を見付けやすくしています。

◎ほっかいどうの防災教育ポータルサイト

左記の「Doはく」のほか、さまざまな防災教育の教材等が紹介されています。

ほっかいどうの防災教育ポータルサイト